30

なまえ　ギンモクセイ

にほんでのよびかた　銀木犀（ギンモクセイ）

しゅるい　モクセイ科

なまえのりゆう　木がはだ色で、サイのかわににているから

とくちょう　9月から10月に白い小さな花をさかせます。ギンモクセイは、キンモクセイという見た目がそっくりな木がありますが、ギンモクセイは、キンモクセイよりかおりはしません。ほんのりするくらい。はっぱはぶあつい。ほうっておくと、さいこう10mのびることがある。はっぱの色はくろいみどり色でつやつやしている。はっぱはまるい。きたないばしょにうえると花がつきにくくなる。

なるくだもの　1から1､5cmの丸い形。つぎの年のはるにはくらいむらさき色になってじゅくす。

キンモクセイ

ギンモクセイ

ギンモクセイのみ

モクセイ

和名	銀木犀、金木犀
別名	

30

分類				
	科（APG分類）	モクセイ科	属	モクセイ属
	科（旧分類）		属	
	科（旧分類）		属	

名前の由来

・樹皮が動物のサイ（犀）の足に似ていることから中国で「木犀」と名付けられた。
白色の花は「銀木犀（ギンモクセイ）」
橙黄色の花は「金木犀（キンモクセイ）」
単にモクセイという場合はギンモクセイの事
日本にモクセイが伝来したのは室町時代

樹木の特徴

・中国原産の常緑小高木。庭木や公園樹として植栽されている。整った樹形と香りの良い花が好まれ世界各国で庭園に植栽されるが、大気汚染のひどい場所では花のつきは悪いと懸念されている。
・雌雄異株で、花期は9～10月、葉腋に白（橙黄）色の芳香の強い小さな花を短い柄で散形状に束生する。萼は4浅裂し、花冠花のつきは悪いと懸念されている。4深裂する。雄花では2個の雄しべと不完全な雌しべ、雌花では1個の雌しべと2個の雄しべがある。
・果実は核果で、長さ1～1．5cmの楕円形で、翌年の春に紫黒色に熟すが、日本では雄株しか知られていない。
・樹皮は淡灰褐色で、縦に裂け目がある。
・葉は対生し、葉身は楕円形又は狭長楕円形、革質。葉表は濃緑色で光沢がある。

用途・その他

・雌雄異株で中国から渡来した樹木で、花とその香りを観賞する花木で、果実の利用はないので、雄株だけ輸入したようで、その後は挿し木が簡単で増やすことができた。
・花の香りはギンモクセイ（銀木犀）よりキンモクセイ（金木犀）のほうが強い。

作成年月日　2021，09，16